



森のなかま

2024年 1月号

NO. 187 (継続332号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302



2024年を迎えて

かながわ森林インストラクターの会 理事長 ⑭黒川敏史

森林インストラクターの皆様

新年を迎えるにあたって、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、本当に暑い一年でした。森林作業に当たっても春先から熱中症に「注意」しつづの一年でした。大きな事故もなく、活動を終えることができたことは、皆様のおかげと感謝いたします。今年も暑い気候が続くのでしょうか？引き続きよろしくお祈いします。

昨年6月の会の総会で理事の選任があり、選出された9人の理事のうち、5人が新たに加わったメンバーになりました。新たな理事は、15期から17期のフレッシュな顔ぶれとなりました。経験不足な面は否めませんが、経験豊かな諸先輩方の支援を受けて、会の一層の発展と継続のために務めさせていただきます。

さて、基本に戻ってインストラクターの本分を確認します。ページのタイトルにもあるように、「森林と人をつなぐ」ことです。県民参加の森林づくり、企業・学校のネットワーク活動を通じ一人でも多くの森林ファンを作っていきましょう。そのためにまず必要なのが、上記活動に積極的に参加することです。指導に自信のない方に向けて部会の研修会や、かながわトラストみどり財団主催のブラッシュアップ研修などありますから、活用してください。

皆様は、必ずしも森林作業（伐倒や下刈り、枝打ちなど）のプロではないかもしれませんが、指導者（インストラクター）の養成講座を受け、神奈川県から認定されたインストラクターのプロです。そのプライドを持って「森林と人をつなぐ」指導をお願いします。重点に置くポイントは、「安全」と「参加者の充足感」です。

森林作業指導の質（レベル）を合わせるために重要なツールとなるのが、部会が作成した作業マニュアルです。会員向けのホームページに掲載されていますので、指導の前には必ず確認してください。当会での作業は、このマニュアルに従うこととなっています。よろしくお願いします。

森林保全パートナー様各位、
当会関係の皆様

皆様のかながわの森林に対するお気持ちを
実現できるように支援していきたいと考えていま
す。本年もよろしくお願い申し上げます。



自宅近くから見た富士山 手前は湘南モノレール

《森林癒やし部会主催》

「足柄ふれあいの村 森林癒やし体験会」

日時 : 2023年9月30日(土) 9時~15時

場所 : 足柄ふれあいの村(南足柄市)

参加者 : 若林⑦、湯浅⑪、藤井(世)⑭、久次米⑯、柳沢⑰

講師 : 山下⑱、笠原⑲、藤井(敏)⑲、宮下⑲

(記・写真 宮下 修一⑲)

今年2回目の森林癒やし体験研修を足柄ふれあいの村で行いました。午前中は少々雨模様でしたが研修を行うことにしました。9時過ぎに研修生全員がこもれば広場に集合。今回の研修の目的は、「森林体験のプログラムの作り方や実践を通して、森林癒やし体験のやり方や技術を身につけること」を主眼にしました。受付を済ませ、オリエンテーションの後、研修の開始。班は2班編成。

初心者の参加もあり、午前の座学では、最初に、森林癒やし体験の基本である、森林安息と森林散歩を行うことの重要性と五感を使うことの大切さを感じていただき、森林浴とその効果、呼吸法、フィトンチッド、1/fの揺らぎなどの基礎的な説明を「森林癒やし体験研修資料」により行いました。

次に、プログラムの作り方や展開の仕方を体験するため、森林癒やし体験の実践の場として、沢沿いの小道とスギとヒノキの樹林地内の2つの環境要素でどのような体験ができるか現場での情報収集と体験メニューを可能な限り班ごとに出し合ってもらいました。雨具を使用しながらの熱心な情報収集とメニュー出しになりました。環境要素、五感の区別、森林癒やし体験のメニュー、安全対策などを収集・確認。座学会場にもどり、体験メニューとプログラムの内容を取りまとめる作業が進みました。班ごとのプログラム展開の仕方は幾分異なりましたが、どちらも興味深い分析に基づくプログラム展開方法の発表となりました。

沢沿いの小道では、立ち止まって木立を眺める、川に降りて水の流れるを感じる、苔の感触を感じる、静かに歩き足裏で落ち葉や土の柔らかさを感じる、水の流れや小鳥のさえずりを聞く、落ち葉のグラデーションを見る、雨上がりの情景を見る、木からのしずくの違いを感じるなどがあげられました。雨の中でも静寂な雰囲気など何かしら癒やさるものがあるということもわかりました。林間では、寝ころび、木に寄りかかるやウッドタッチ、サンショウの香りを楽しむなどが挙げ



げられ、いずれも森林癒やし体験のプログラムのメニューになりそうなものばかりでした。座学の最後にはハンモックの組み立て方、安全な乗り降りの仕方を実践しました。

午前中から天気は回復、青空になり、体験にはもってこいのコンディション。昼食後、班ごとに分かれ軽いストレッチの後、講師が林内の各ポイントを案内し森林癒やし体験を行いました、森林癒やし体験の導



入、沢沿いの小道で森林散策、途中、せせらぎの音や小鳥のさえずりを聞く、そよ風を感じる、樹林内では森林安息としてハンモック体験、森林浴と呼吸法、森林散策、大きなケヤキの大木の前で座観、マットの上での寝ころび、1/fの揺らぎの体験を実践。それぞれのポイントで、講師による説明を聞くとともに、話し方や声掛けの仕方などを学んでいただいた。

プログラムの最後には、味覚、嗅覚を研ぎ澄ますため、全員でハーブティを楽しんでいただき、体験の感想を意見交換することができました。参加者から、プログラムを実践する自信がついた、足柄ふれあいの村の体験は新鮮でとてもよかった、リラックスした経験ができました、プログラムの作成に興味深い経験が出来ました、班ごとの発表内容の違いがあるのを認識できたのが良かったなどの意見をアンケートからも見ることができました。研修の実施までには、たびたびの現地調査やプログラム作成検討を行いました、参加者のお声を聞くことにより研修を開催してよかったと感ずることができました。

かわさき市民祭り（街頭キャンペーン川崎）

日時：令和5年11月3日（金・祝）～5日（日）（3日間）

場所：川崎市川崎区 富士見公園（川崎競輪場・西スタンド2F）

参加者：487名（11/3：146、11/4：177、11/5：164）

財団：11/3：古舘 様、11/4：江坂 様、11/5：倉野 様

インストラクター：

11/3（金） L森本⑤、加藤①、相馬⑤、安部⑤、鈴木⑤、山崎⑦、草野⑧、
青木⑩、一重⑪、松本⑪、山崎⑫、大原⑬、小国⑰、小池⑱

11/4（土） L森本⑤、牛島①、安部⑤、鈴木⑤、草野⑧、村井⑨、青木⑩、
角田⑩、一重⑪、長尾⑪、山崎⑫、江頭⑬、大原⑬、小国⑰

11/5（日） L森本⑤、島岡③、相馬⑤、安部⑤、武本⑦、草野⑧、一重⑪、
長尾⑪、山崎⑫、江頭⑬、大原⑬、小野⑱、小国⑰、小池⑱

外部講師：11/4・5 シュロバッタ・草笛講師：師井 様

（記 森本 正信⑤、写真 大原 正志⑬）

コロナ禍から完全に復活した（来年に市制100周年となる）政令市・川崎でのビックイベント。来場者規模は50万人。クラフトの出し物は、昨年同様にシュロバッタを中心とし、11/5には草笛のミニ演奏から葉巻笛まで幅広く展開出来た。

参加インストラクターの期別分布も1～17期と多彩で、水源事業PRの紙芝居担当として17期生も登場。課題としては、紙芝居の時短運用や、実施サイクルの平準化などを工夫していく。いずれにしても、楽しくイベントが打てて、多謝。



日本触媒・湯河原万葉の森 開所 10 周年記念の活動

日 時 2023年11月11日(土) 10:00~15:00
 場 所 湯河原町鍛冶屋 湯河原万葉の森
 参加者 株式会社日本触媒社員・ご家族様 54名 (公社) 国土緑化推進機構職員・ご家族様 2名
 湯河原町職員様 2名
 スタッフ かながわトラストみどり財団豊丸様・藤本様、
 看護師佃様
 インスト L内野⑨、坂齋⑦、女川⑨、辻村⑨、岩田⑭、黒川⑭、
 牧石⑭、石垣⑮、河西⑮、西村⑮、小池⑰、兵頭⑰、山本⑰

(記 内野ミドリ⑨、写真 河西 静夫⑮、内野ミドリ⑨)

2013年11月に開所した日本触媒・湯河原万葉の森が開所10周年を迎え、森に大勢の関係者をお迎えして記念の活動を行いました。最初にこもれび広場で記念式典を行い、菜畑林道沿いの広葉樹植栽地へ移動して、川崎製造所所長様に記念樹として黄葉の美しいケヤキを、参加者の皆様には、2年前に森の中から実生の幼樹を探して手作りの苗畑で育てた広葉樹(イロハモミジ、ケヤキ、ムラサキシキブ、ヤマツツジ、カジカエデなど)21本を植栽していただき、動物の食害などから守るためにトリカルネットを巻く作業もしていただきました。

昼食は日本触媒様が用意してくださったボリュームたっぷりのお弁当と、体験活動時にいつも用意して好評だった森のクロモジの枝で作ったクロモジ茶を賞味してもらいました。午後は、開所記念(10年前)に植栽して大きく育った少花粉スギの枝打ちと、クラフト(記念品のエコバックに森で集めたお気に入りの葉っぱスタンプと香りのする木の枝や葉で香り袋づくり)とを入れ替えて全員が体験して記念品として持ち帰っていただきました。クラフトは、お子様は喜ぶだろうとは思っていましたが、大人も楽しんでくださったのでよかったです。

また、雨天プロ用として10分程度の講話資料を作成していたら、トラストみどり財団で全員に配布資料として印刷してくださったので参加者の方にもインストラクターにもよい記念になりました。



開所から多くのインストラクターが関わり、情熱を注いだ森の歩みを振り返ると感慨深いものがありました。台風で体験活動が中止になった後コロナ禍で森の環境整備と維持管理を行うだけの活動が3年半も続きましたがメンバーのおかげでしっかり業務を遂行したからこそ、今回の記念イベントを成功させることができたのだと思います。事業部メンバーに感謝しています。



活動短信

今回の掲載はR5年10月18日からR5年10月28日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

1月(睦月)(旧暦12月師走)の 二十四節気と雑節、鳥こよみ

二十四節気 :小寒1/6 大寒1/20

一年で最も寒いこの時期を「寒」といいます。小寒から始まり、大寒になると日がしだいに長くなります。**鳥こよみ** 元日の朝のスズメ(またはその囀り)を初雀(はつすずめ)といえます。身近な存在のスズメですが、都市部では減少しているそうです。皆さんの周囲はどうですか？

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も
場 場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財 (公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師
ス 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠
以下、**本文を概ね400字前後を目安**として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)_m

◆ 明治安田生命保険相互会社様 森林体験研修

日 令和5年10月18日(水) 晴れ
場 県立21世紀の森
参 参加者 84名 (大人84名)
県 神奈川県 水源環境保全課 水源の森林推進グループ
黒田様 ・佐藤様
イ L上宮田⑪、佐藤①、上田⑩、小笠原⑩、吉田⑪、
西出⑫、黒川⑭、牧石⑭、石垣⑮、久次米⑯、
内田⑰、小国⑰

「明治安田 X Jリーグの森～未来を紡ぐ森～」というテーマのもと、明治安田生命保険の新入社員および、Jリーグ、湘南ベルマーレ、環境省の方々など総勢84名が集い、森林体験研修を21世紀の森で開催しました。明治安田生命保険相互会社が神奈川県での森林再生パートナーに参加して初めての森林活動ということで、参加者の期待がひしひしと伝わる開会式でした。午前中は、間

伐、枝打ち、竹林皆伐の各グループにわかれ、森林作業の体験でした。開始時間が遅れた分あわただしい作業となりましたが、のこぎりや鎌を始めて手にする参加者も多く、また竹林皆伐では藪や急な斜面に阻まれましたが、安全に気を付けて慎重に作業を進め、怪我なく作業を終えることができました。作業を終わってすっきり充実した参加者の笑顔を見ることができました。

午後は、森林散策とマイ箸



つくりの2つのグループに分かれての活動でした。内山林道の散策では、富士山こそ眺めることはできませんでしたが、眼下にひろがる平野と湘南の海を遠望し、故郷をなつかしむ方もいました。マイ箸づくりへの参加者は、前後にどんぐりコース

散策や展示館見学を行い森林への理解を深めてもらいました。盛りだくさんの研修でしたが、参加者同士すっかり打ちとけて楽しそうに帰途につきました。



(記 佐藤恭平①、

写真 明治安田生命保険相互会社様提供)

◆ ENEOS株式会社 川崎製油所様

日 令和5年10月21日(土) 10:00~13:00 晴れ
場 県立21世紀の森
参 大人51名 子供9名
県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課 宮崎様、秋本様
イ L 牧石⑭、佐藤⑤、杉崎⑩、長尾⑪、西出⑫、石垣⑮、
松浦⑯、小池⑰、三浦⑰、森本⑰

ENEOSみらいの森 活動「枝打ち」「竹林整備」「自然観察」「木工細工」の内容で県立21世紀の森で行われた。



当日は全国的に11月の肌寒さ予想でしたが、活動開始時刻の10時には快適な気温となった。9時45分スケジュールどおり大型バス2台が到着、10時～運動広場

で開会式開催、開会の挨拶、県担当者の挨拶、インストラクター紹介、準備体操、集合写真撮影行った後、グループ毎に集合し10時15分～移動開始。枝打ちグループ、竹林整備グループは神代杉広場に移動し用具を装着し各作業エリアに移動。



自然観察グループは森林館を中心に周囲の自然観察をスタートした。木工細工+自然観察グループは最初に木工細工を行い完成後、自然観察を行った。枝打ち活動は割り当て区域の杉70本の枝打ち全てを完了。竹林整備活動は約100㎡の竹林整備を完了。自然観察は森林館周囲とドングリーコース内で各種のドングリ観察、緑のダムの説明、ヤブニッケイ、ギンモクセイの香りも実感していただいた。



ムクロジの木を前に、ムクロジの実の用途「天然の石鹸」「お守り」「数珠」「羽根つきの珠」の説明も行なわれた。参加された皆様より楽しかった、枝打ち後は周囲が明るくなり見通しも良く大

変気持ち良かったと感想をいただき予定通り13時、皆様をお見送りし終了した。(記・写真 牧石 稔⑭)

◆ 県民参加の森林づくり (除伐)

日 令和5年10月22日(日) 10:00～12:00

場 県立21世紀の森

参 大人36名 学生2名

財 古舘様、藤本様

看 青木様

イ L永田⑯、菊池①、三浦⑰、水口⑨、滝澤⑤、杉山⑰、

吉田⑩、中野⑰、大見⑮、山本⑰、松原⑰

秋らしい爽やかな日曜日、足柄の21世紀の森で竹と笹の除伐作業が行われました。ちょうど同会場では「第15回 森のフェスティバル 森まつり」が開催されており活気があった反面、通常の駐車場が利用できず、参加者、インストラクターともそれぞれ少し離れた駐車場を利用することになりました。しかし、快く誘導に応じてくださった皆さんのおかげで順調にスタートできました。

活動場所は、通路まで覆い被さっている竹を避けながら歩くような状態で、足元も前回切られた竹がところどころ伸びていてつまずきそうでした。また、除伐され積まれていた竹が枯れて崩れて来ていて、乱雑な感じがしました。

班によって活動場所が平地と斜面に分かれていましたが、斜面は思っていたより傾斜が強く、参加者の中には最初は足元がおぼつかない感じの方もいました。しかし、慣れた方が自発的にサポートして下さったことや、事前に踏み抜きについての注意が繰り返されたためか、怪我人もなく活動できたのが何よりです。活動後の明るく整理された森を見た皆さんの笑顔が充実感を物語っていました。一方で、枝払い後の枝の集積スペースがなかなか見つけられず作業の支障となった、という感想が全ての班から出ていたようです。最後に、今回グループで参加して下さった神奈川県柑橘加工株式会社様(度々足柄茶を寄付してくださっている)を中心に、賑やかな記念撮影となりました。

作業中に思いがけない出来事もありました。活動場所の一部で「サルナシ」が大量に見つかったことです。「サルモモ」と間違っ



◆ 横浜市下野庭小学校 林内整備体験

日 令和5年10月25日(火) 10:00～15:00 晴れ

場 宮ヶ瀬湖畔園地内 千年樹植樹地

参 大人11名、子供87名、計98名

財 古舘様

イ L牧石⑭、滝澤⑤、野牛⑤、松本⑩、西出⑫、岡村⑯、

小林⑯、小国⑰、野口⑰、三浦⑰

今回、宮ヶ瀬湖畔園地内 千年樹植樹地の新たな場所で林内整備を行った。バス到着遅れにより10:50~1組目の活動を開始した。挨拶、インストラクター紹介、班毎に用具を装着したのち活動エリアに移動。作業内容、作業方法、鋸の使い方の説明したのち作業開始。管理者様より「実生を含め、木は伐らないよう」との指示で



組ごとに挨拶



倒木の玉切り

少々困惑したが、倒木の玉切り、片付け、樹木に絡んだ蔓の除去作業を実施し小学生には十分楽しんで活動を行った。活動の合間に、コナラに付いたセミの抜け殻、何

故木が枯れたのか、かながわ県のダム、カントリーヘッジ、除伐、木に巻き付いたツルの説明が行われ子供たちは熱心に聞いていた。13時まで2組(1組約50分間の活動)



倒木の片付け

が活動を行い13:00~約30分の昼食をとり、13:35~3組目の活動開始し14:30最終組の活動終了。参加した子供たちに感想を聞くと、周囲の草が無くなり明るくなった。枝に付いたツルを引っ張り楽しかった。落ちて太い木を切って楽しかった。ホオノキに絡み付いたツルを切って楽しかった。の多くの感想があった。



コナラに付いたセミの抜け殻の説明

(記、写真 牧石 稔⑭)

◆ 県民参加の森林づくり 間伐

- 日 令和5年10月14日(土) 9:00~13:30 晴れ
- 場 小田原市久野(今井野)
- 参 45名(大人45名、子供0名)
- 財 倉野様、藤本様 看 小林様
- ス 小田原森林組合:城所様他 計2名
- イ L松本⑩、柏倉④、石川⑫、西出⑫、岩田⑭、鈴木⑭、水野⑭、久慈⑯、堀口⑯、祐谷⑯、小国⑰、小池⑰、田島⑰、鶴田⑰ 鈴木⑰、森本⑰ 計16名

天気も良く、10月中旬で暑くも寒くもなく、森林づくり作業日和であった。現場は地主が植林した11年生の胸高直径10cm程度のヒノキ林であり、各班9から10人の5班に分かれ、1~3本/人を目途に2時間作業を行った。

平らな土地の為、作業の難易度は低かったが、比較的狭いエリアで複数本の間伐を行うため、安全性には細心の注意を払った。



伐倒後の玉切、枝打ち風景

比較的細い木の為、マニュアルに記載の作業手順に沿っていなかった反省点があったが、2時間の作業で大小107本の間伐を完了し、枝打ち、2mの玉切り、作業後の林床整理を徹底し、最終的に林床に木漏れ日の差す整理された現場に仕上がった。作業前は緊張の面持ちの参加者も、作業後は充実感を得たせいか、昼食時も含め会話が弾んでいた。18期生から9名の参加があり、新しい仲間に対して教える側も力が入った。但し、2名の鋸による切傷の発生という課題も残った。

作業前は選木した目印のテープが目立つ樹林であったが、作業後はほとんど残ってなく、45人の作業として適当な本数であった。

(記 鈴木 秀明⑰、写真 松本 保⑩)

◆ 株式会社カナエル様 竹林整備作業

- 日 令和5年10月27日(金) 10:00~12:00 晴れ
- 場 県立21世紀の森 マダケ展示林
- 参 大人14名
- 県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課 村松様、黒田様
- イ L牧石⑭、岡村⑯

10月27日(金)「株式会社カナエル 竹林整備作業」を実施した。集合場所の21世紀の森駐車場より参加者全員が神代杉前に移動。スケジュール通り10時~開会



作業手順の説明

式、県担当者挨拶、インストラクター紹介、準備体操を行ったのち参加者の皆様にご協力していただき倉庫より用具を搬出。用具装着後マダケ展示林に移動。作業開

始前に作業手順「伐採・玉切り・枝払い・集積」の見本を見ていただいた後、参加者14人が安全な作業スペースを確保し一斉に作業に入った。11時~約10分間の一斉休憩を取ったのち11時40分



作業終了後、参加者全員で記念

まで作業を実施した結果約100㎡の竹林整備を行なった。移動開始前に各自の用具を落としていないことを確認後移動開始。到着後用具の整備を行い、参加者の皆様にご協力いただき倉庫に返却。カナエル関口様よりこの活動は約10年近く継続し実施している。「今後も引き続き活動を継続して行きます」の挨拶をいただき無事終了した。

(記、写真 牧石 稔^⑭)

◆ 三菱倉庫株式会社様 森林再生パートナー森林活動

日 令和5年10月28日(土) 10:00~14:00 晴

場 世附(足柄上郡山北町)

参 23名(大人23名)

県 水源環境保全課 宮崎グループリーダー

イ L高谷^⑰、辻村^⑨、上田^⑩、牧石^⑭、坂井^⑮

東名高速の事故渋滞の影響でメンバー構成を変更して活動を進めました。間伐班は胸高直径20cm程度のスギの高木を伐倒しました。インストラクターから水源林における間伐の意義を説明して、それぞれの作業を手順通りに皆さんで手分けして丁寧に進めました。目標方向にきれいに伐倒したスギを3-4mに玉切りして筋置きして作業完了で

す。自然観察班は林道沿いを散策、クルミ、サンショウ、ガマズミなど季節の果

実を五感で楽しんでいただけたようです。色付き始めた秋の西丹沢での活動でした。

(記 高谷 秀史^⑰、写真 三菱倉庫様より提供)



◆ 横浜市立川島小学校 長竹間伐体験

日 令和5年10月28日(土)9:30~12:15 晴れ

場 相模原市緑区 長竹継承分収林

参 57名(大人7名 5年生児童50名)

財 古舘様

イ L松石^⑬、柏倉^④、佐藤^⑤、徳岡^⑪、松本^⑩、西出^⑫、石垣^⑬

秋晴れの気持ちの良い朝、前日愛川ふれあいの村宿泊の皆さんが定刻の到着です。元気よく挨拶の後6班に分かれ、装備を完了し「根っこすごいよ!気をつけて」と互いに声をかけ合いながら山道を上ります。



担当区域に到着後、間伐の意義や作業手順の説明を受け、伐倒木に向かいますが、崩れる土砂に苦労し「お尻真っ黒!」と滑りながらの移動です。

いざ鋸を使っただけの作業では力が入りすぎて前後に引けない子・難なくこなす子、さまざまとなりましたが2回目3回目には皆上達です。

かかり木になり大変な状況では、かえってそれが全員の協力を産み、良い結果となった班もありました。

伐倒後はコースター作りをし「校長先生の分」「休みの子の分」とさらに切り、満足顔の皆さんです。

「木って冷たい」「重い」「思ったよりずっと固くて斬るのは大変だった」等、思い思いの感想を述べた後「お腹すいた〜」の声に事故無く怪我無く、笑顔の下山となりました。

(記 石垣 桃栄^⑮、写真 松石 藤夫^⑬)



◆ 日揮グループ様水源保全活動 間伐・下刈り

日 令和5年10月28日(土)9:00~12:30 晴

場 塚原水源林

参 21名(大人18名 子供3名)

県 神奈川県水源環境保全課 武田様・星様

イ L上宮田^⑪、鈴木^⑧、湯浅^⑩、真貝^⑪、大谷^⑰、野口^⑰、田島^⑰、広浜^⑰、松原^⑰、森本^⑰

塚原水源林にて行われた水源保全活動は、予期せぬ出来事で幕を開けました。

インストラクターたちが活動準備のため一足先に塚原へと向かっていたところ、なんと車の前方の道脇に直径40cm程の木が倒れていました。狭い山道なので(参加者を乗せた)バスが通るには厳しいだろうと倒木を除けることになりましたが、脇の木が邪魔をして数人で押ししてもビクともしません。切断することになり、皆が交代でノコギリを動かし約20分後やっと切ることができた時には歓声が上がりました。

さて、活動場所に着き、道具の準備後、各活動場所を下見しますと植栽場所



は入り口も苗木も藪に覆われており、下刈り担当インスト4名で経路確保の刈り払い、間伐班インストの5名は丸太切り用を間伐しそれぞれの班に設置、皆さんの到着を待ちました、が・・・酷い渋滞に巻き込まれていてかなり遅れそうだと連絡が！最終的に相当活動時間が短くなることも想定されたので、急遽プログラム内容が間伐と丸太切りへ変更されました。



ようやく皆さんが到着！グローバル企業らしく、外国人の方も多くいらっしゃいます。渋滞疲れも感じさせない笑顔で“日揮スペシャル体操”を行った後、すぐに活動を開始しました。



間伐では各班1本の木を伐り、皆さんは木の倒れる迫力に感動されていたようです。小さなお子さんは目を丸くしていました。丸太切りでは、それぞれ木を好きな長さに切ってもらい、自宅で楽しんでもらうことにしました。アクセサリ掛け、コースターなどに活用したい、など話しているのを耳にしました。

森の中の活動は気持ちが良いですね、と言っていたきましたが、ご家族、ご友人の微笑ましいやり取りにこちらも癒されました。時間は短くなってしまいましたが、限られた中でも「森活」を楽しんでいただくことができましたようで良かったです。

(記 松原 純子⑩、写真 上宮田 幸恵⑪)



天気は絶好の県民参加日和。雲間から少し薄日が差し、西方の足柄山系の向こうに、時折富士山が頭を出す。山北駅に近い山北町役場の駐車場で8時20分から参加者を受け付け。マイクロバス5台で近くの河村城址歴史公園へ乗り込む。由緒ある城跡での県民参加は珍しいのではないかと。

広い草原の本城郭（ほんじょうくるわ）でオリエンテーション。道具を受け取り、少し歩いて山中の作業現場に入る。

この日の作業は除伐。現場は南北に伸びる尾根の山道の両側で、低木や竹を皆伐する。地元の人だけでなく、神奈川県民にとっても大切な憩いの場なので、仕上がりの美しさが求められる。



東西が切り立った斜面で、作業範囲が比較的狭い割には人数が多く、また参加者の熱心な作業のためか、みるみる間に低木や竹が刈り取られた。ただ、予想外に竹が多く、竹引きノコが欲しかったとの声が聞かれた。午前中約2時間の作業で林の中はずっと向こうまで見渡せるようになり、参加者は「きれいになって気持ちが良い」と話していた。

正午ごろ本城郭に戻って昼食。13時すぎにマイクロバスで役場駐車場に戻り、解散となる。参加者の中には全員に入湯券が配布された「さくらの湯」で汗を流す人もいた。

(記 湯浅 鉄男⑫)

◆ 第2回 県民参加の森づくり (除伐)

日 令和5年5月28日(日) 8:20~13:20 曇

場 山北町山北 河村城址歴史公園

参 91名

県 神奈川県森林再生課 伊大知様

町 山北町森林課 中村様

財 豊丸様 青木様

ス かながわ緑の大使 吉村様

用具配備 山北町森林組合様

イ L 湯浅⑪、齋藤⑧、国分③、小池⑬、藤代⑬、相馬⑤、小国⑬、石川⑫、水口⑨、小野寺⑬、古舘⑬、岩田⑭、中鉢⑬、水野⑭、江上⑬、三好⑬

編集部の手違いで掲載が遅れましたことを、お詫び申し上げます。




かながわ森林インストラクターの会「緑の募金」の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

森の案内人は12月～2月はお休み。3月から再開します。

「水源林ニュース」

12月～2月は休刊です。バックナンバーはこちらからご覧ください。<https://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

2024年2月4日(日)

第15回 森林文化講演会

森と一緒に生きてみる
～森のめぐみを考える～

講師：東京大学名誉教授／理学博士
谷田貝 光克 氏

場所：藤沢市南藤沢 22-7
第一相澤ビル

時間：14:00～15:30(開場 13:30)

定員：70名(先着順)

会費：500円

※申し込み要領 [添付のチラシ](#)
をご参照ください。

申込締切：2024年1月20日(土)

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ **森のなかま原稿募集** ◇
会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com
Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当> 笠原かずみ
Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫
skasai0618@gmail.com
Tel : 090-1227-6209

【別冊】小国 一男
Mail : ka-oguni@ab.auone-net.jp

原稿は随時受付けています。

- やどりき水源林問合せ：
(公財)かながわトラストみどり財団
TEL : 045-412-2255
FAX : 045-412-2300
- ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
E-mail: midori@ktm.or.jp

(かながわ)森林インストラクターの会
ホームページ
<http://www.forest-kanagawa.jp>
E-mail k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

編集後記

★ 丹沢も大山も雨やオーバーユースで登山道が削られているところが多くありました。最近、岳の台や大山の見晴台付近を歩くと、丸太を使った歩きやすい階段になっていました。神奈川県山岳連盟の皆様のご尽力だということです。17期のインストラクターも在籍していて、何十キロもある砂利の袋を担ぎ上げて補修したと聞きました。自然観察の踏査や下見でも、落ちているごみをポケットからビニール袋を出して捨てるインストラクターがいっぱいいます。このボランティア精神にあやかっ、今年目標は「もっと人と地球に優しくなろう」です。
(小池む)

★ 昨年(2023年)6月号から、「森のなかま」別冊の編集を担当しております。関係者の皆様には毎月に寄稿いただき、あらためて御礼申し上げます。今年も正確で読みやすい誌面をつくって行きたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いたします。(小国)

★ 年の瀬の雰囲気が好きなのですが、今年は気候の変動か？冬の季節を感じられずに、あっという間に一年が終わってしまいますね。ここにきてやっと冬らしく寒くなってきました！やはり冬は寒くないと！(笠原)

★ 最近 不耕起栽培なるものに興味を持ち、試しにやっています。土壌には菌類から、ミミズに至る生物が地上の何百倍も住んでいる。微生物が生きていくうえで、土中の有機物を消化し、肥料分を作ってくれるが土を耕すことで、これら微生物の生態系を荒らし、草を取って裸地にすることで乾燥や、土壌流出を招いて、微生物を殺してしまう(ここは森の中でも共通する)。土の養分が足りない、化学肥料に頼るという悪循環になっている慣行農法をやめ、耕さないことで、土壌の生態系を守り、豊かな土にするという考えだ。言うほどうまくはいきませんが、細々やっています。興味があればググると色々出てきます。
(黒川)

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

https://twitter.com/kanagawa_sizuku

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は2月号です。

森のめぐみ シリーズ



年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人：河西 静夫
広報部：黒川 敏史、松本 保、笠原 かずみ、長尾 晴子、
竹内 明彦、小林 照夫、小国 一男、小池 宗子
支援：大原 正志、吉田 郁夫

森と一緒に生きてみる

森のめぐみを考える



東京大学名誉教授／理学博士
谷田貝 光克 氏(やたがい みつよし)

私たちは地球に生まれてこのかた、森のめぐみの中で生きてきた。森は木の実・山菜をなどの食べ物や薬用植物をめぐみ、染料や樹脂、精油、住みかとなる木材などを提供してきた。それらは科学技術の進歩とともに化石資源からの合成品に置き換わり影を潜めていったものも少なくない。温暖化や環境汚染が進む中で合成品に代わる再生可能で環境にも優しい天然物の利用が見直されている。森がつくりだす特用林産物の例や海外での植林の例などについてご紹介する。

プロフィール

1943年栃木県生まれ。1971年東北大学大学院理学研究科博士課程修了。米国バージニア州立大学化学科及びメイン州立大学化学科博士研究員、農林省森林総合研究所生物活性物質研究室長、同森林化学科長などを経て、1999年東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻教授。2006年より東京大学名誉教授。2011～18年フレグランスジャーナル社「香りの図書館」館長。専門は天然物有機化学。

第15回森林講演会

2024年2月4日(日)

14:00～15:30 (開場 13:30)

場所 藤沢市南藤沢 22-7 第一相澤ビル (藤沢駅南口 OPA 隣)

会費 500円 定員 70名 (先着順)

インストラクターの会の会報誌【森のなかま】に
2014年4月号より10年間執筆中です。



主催：NPO法人 かながわ森林インストラクターの会
共催：神奈川県森林協会 (申請準備中)
後援：(公財)かながわトラストみどり財団 (申請準備中)

申し込み：

- 1.お名前 (フリガナ) 2.ご住所 (市まで) 3.年代
- 4.所属団体があれば団体名 を明記の上
S-instb12@jcom.zaq.ne.jp
担当 菊地 まで申し込みください。
締切 1月20日(土)